

# 武蔵野市学習者用コンピュータ通信

第22号

発行

武蔵野市教育委員会指導課

令和4年11月

市ホームページにも、これまでのバックナンバーを含め掲載しております。

「学習者用コンピュータ通信」を検索していただくか、QRコードでアクセスしてください。



学習者用コンピュータ通信

検索



## ICT 教育をテーマに、むさしの教育フォーラムを開催！

11月5日(土)に、武蔵野スイングホールで、第16回むさしの教育フォーラムを3年ぶりに開催しました。今回のテーマは「学校・家庭・地域で考える、これからのICT教育」です。当日は、4名の小・中学生を含む約80名参加者の方々から、Google フォームを使ってリアルタイムに意見や質問を受けながら、パネルディスカッションを進めました。

パネルディスカッション第1部の「一人一台の学習者用PCで子どもの学びはどう変わったか」では、

### 【小学校より】

今までは、授業中に挙手した子どもが活躍することが多かった。しかし、学習者用PCを使い、アンケートフォーム等を使うことで、全員の意見を集約・共有できるようになった。

### 【児童より】

学習者用PCを使う中で、友だち同士でトラブルがあっても、お互いに注意し合って解決をすることができている。

### 【中学校より】

インターネットの情報をそのままコピーして安易に終わるといったことがある。自分で考え、まとめる力が大切だ。

### 【保護者代表より】

学習者用PCが入ったことで、子どもたちのキーボード入力へのハードルが下がった。コロナ禍で学校に行けなかった子へのフォローや意見の共有などのつながりも大変ありがたい。

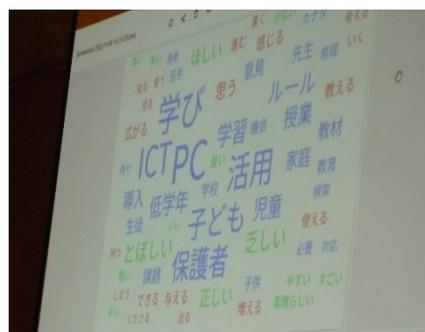
### 【有識者より】

我々がこれまで生きていた社会やライフスタイルが変わってきている。学習者用PCを使って自分の意見を入力できなど、頭を常にフル回転して思考する授業に変わってきていると言える。

など、多くの意見が出されました。ディスカッションを聞いていた会場の保護者の方からは、「子どもたちの活用事例が、想像を超えるレベルで驚いた。」「リアルな話し合いやコミュニケーションが乏しくならないか不安に思った。」等、様々な意見がありました。



【盛り上がりを見せたパネルディスカッション】



【会場に映し出された来場者の意見】

(裏面あり)

これらの意見を受けて、第2部の「子どもの学びはこれからどこに向かっていくか」では、

【小学校より】

児童の様子を見ていると、学習者用コンピュータが学習道具になっている。簡単に手に入る情報は、自分の知識として落とし込めていないことがある。実際の体験や考える場面をつくるのが大切だ。

【中学校より】

デジタル・シティズンシップを育てていくには、教員も生徒もトライ＆エラーでやってみることが大切だと思う。授業以外でも、文化祭で演劇を行うにあたっての意見交換や音楽等の資料準備に活用している。

【生徒より】

学習者用PCは学校から借りているため、物を大切にすることというのを再度確認できた。生徒同士のトラブルについては、学習者用PC上よりも、普段使っているLINEなどでのコミュニケーションにおいて疑問に感じることがある。

【保護者代表より】

学習者用PCの活用の中で、リテラシーをはじめとしたデジタル・シティズンシップの育成を進めてほしい。保護者も一緒に成長していく、学んでいくのが大切だと思う。細かいルールを大人がつくるというよりは、まずは大きいルールを自分たちでつくっていくのが大切ではないか。

【有識者より】

ただ禁止とする方が簡単である。自分で考え、目的を考えて実行することがこれからは大切だ。どのような使い方がよいのか、学校・家庭・本人と一緒に考えていくのが大切だ。また、紙、デジタル関係なく情報の正しさを見抜いていくのが大切になってくる。

と、これからのデジタル・シティズンシップ教育について様々な意見が出ました。会場の保護者の方からは「学校でも今回のようなフォーラムを開いてほしい。」「学習者用コンピュータの導入には不安が大きかったので、好事例が聞けて良かった。」といった意見・感想がありました。デジタル・シティズンシップ教育は学校だけで行われるものではありません。子ども、家庭、学校が一体となって進めていくことが大切です。デジタル・シティズンシップ教育の推進に、ご協力をお願いいたします。

## フォーラムで受けた質問にお答えします

フォーラム中に多くの質問をお受けしました。その中からいくつかの質問について、お答えします。

| 質問内容                          | 回答  |
|-------------------------------|---|
| 学習者用コンピュータをどんな教科で使用しているか？     | すべての教科で使用しています。ただ、教科の特性によって使う場面に違いはあります。委員会や係活動等、授業以外の活用も進んでいます。                            |
| 検索制限はかかっているか？                 | フィルタリングを設定しているので、不適切な内容のサイトは見られません。   |
| タイピングはどうやって覚えているのか？           | 教育委員会からは「プレイグラム タイピング」等を紹介しています。子どもたちは自分たちでタイピングサイトを探し、各自で練習しているようです。                       |
| 字を書く力は必要なくなるのか？               | 字を書く力は今後も必要です。手書きにするか、学習者用コンピュータを使用するかは、適切かつ効果的な場面を選んで指導しています。                              |
| プログラミングの授業はいつから始まるのか？         | すでに行っています。例えば「スクラッチ」等を利用して、小学校では、算数や理科、中学校では技術の時間等で行われています。                                 |
| 教員同士、子供同士での習熟度の差はどう埋めているのか？   | 教員は夏休みに市主催の研修を受講したり、各校で研修を開いたりする等、研鑽を重ねています。子どもたちは、授業中の活用で学ぶ外に、学級内で互いに教え合ったり、各自で練習したりしています。 |
| 学習者用コンピュータの持ち帰りの活用はどうなっているのか？ | 基本的に、小学校3年生から持ち帰りを行っています。Classroom を使って翌日の持ち物を確認したり、宿題を提出したりしています。                          |

このほかにも多くの質問をいただいています。ここで答えできなかった質問に対する回答は、ポータルサイトに掲載しています。右のQRコードをご利用ください。  
(携帯電話の機種によって、読み取れない場合があります。その際は、「武蔵野市市立小中学校ポータルサイト」を検索し、「第16回むさしの教育フォーラムの報告」をご覧ください)

